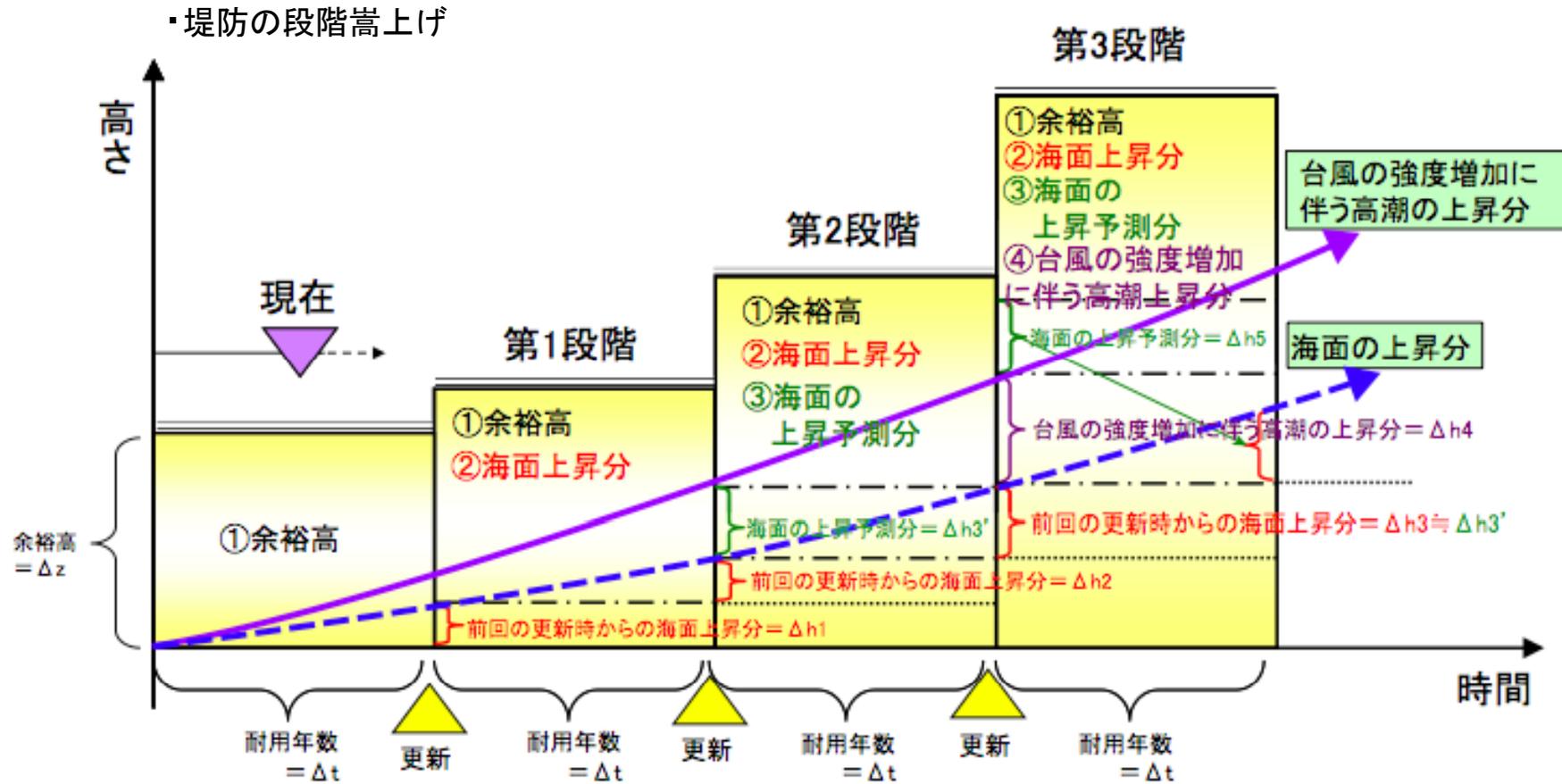


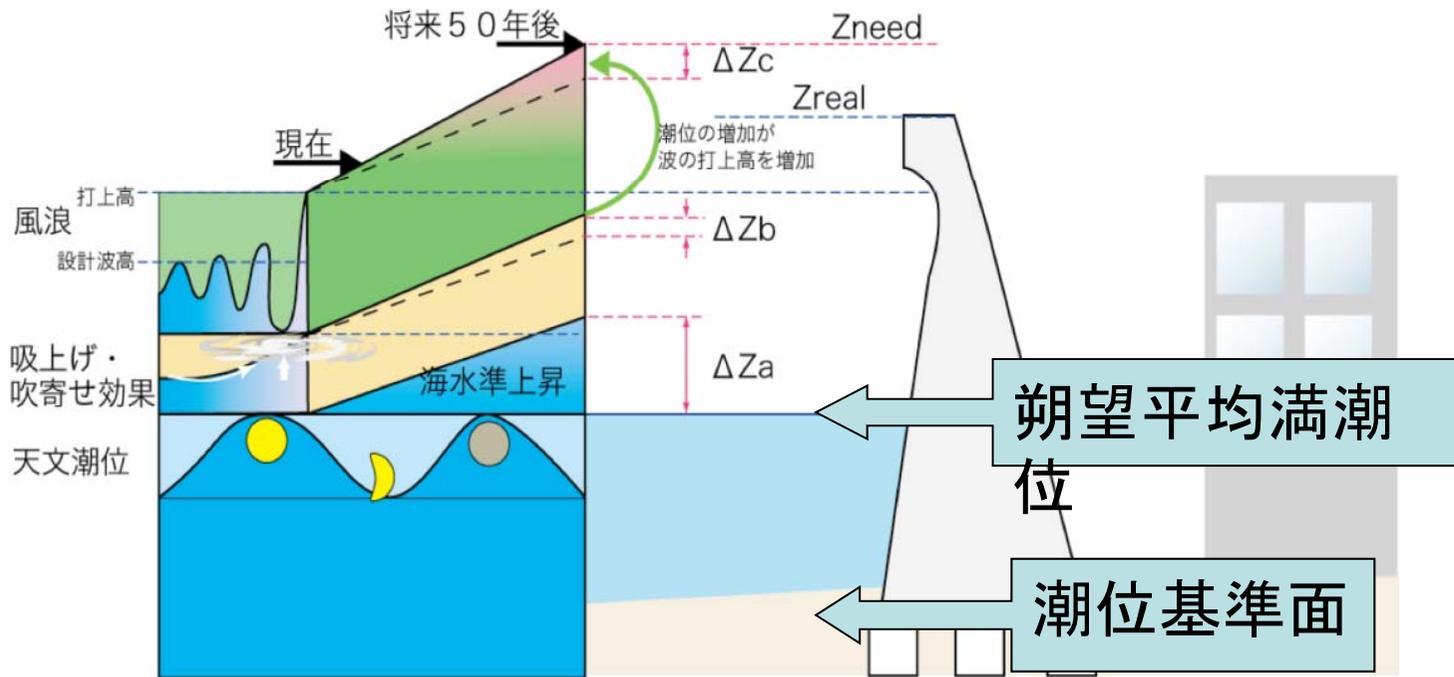
日本沿岸の海水面上昇・波浪の変化状況分析結果  
と  
台風の将来変化による三大湾の高潮偏差・波高の試算

国総研 海岸研究室

# 水災害分野における地球温暖化に伴う気候変化への対応策のあり方について (答申、平成20年6月)



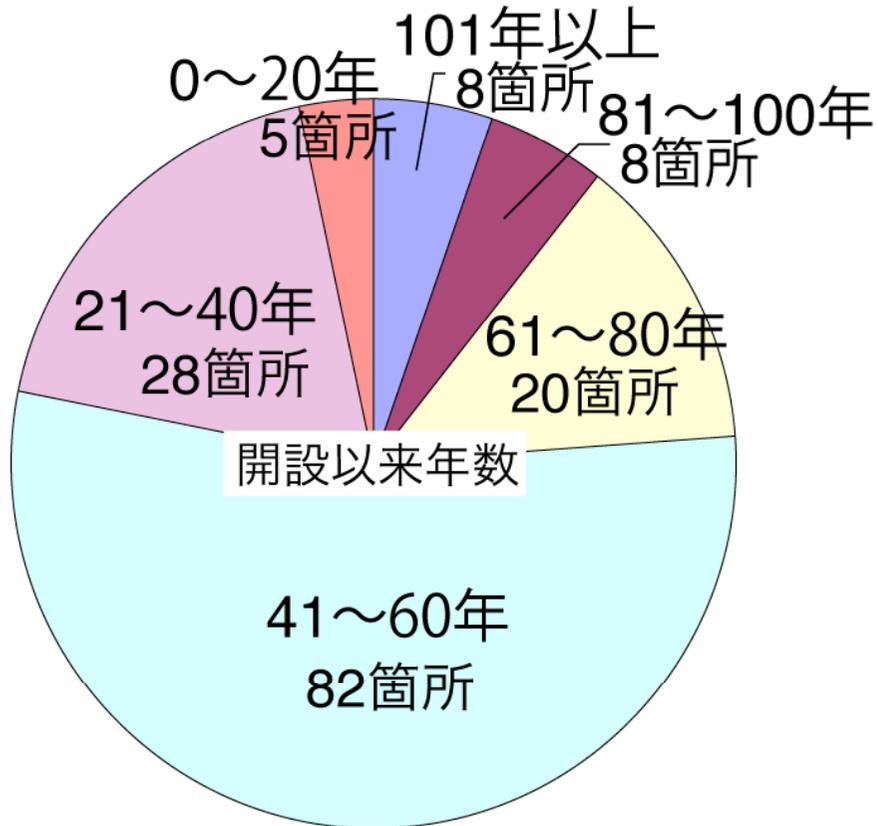
# 海面上昇分の扱い



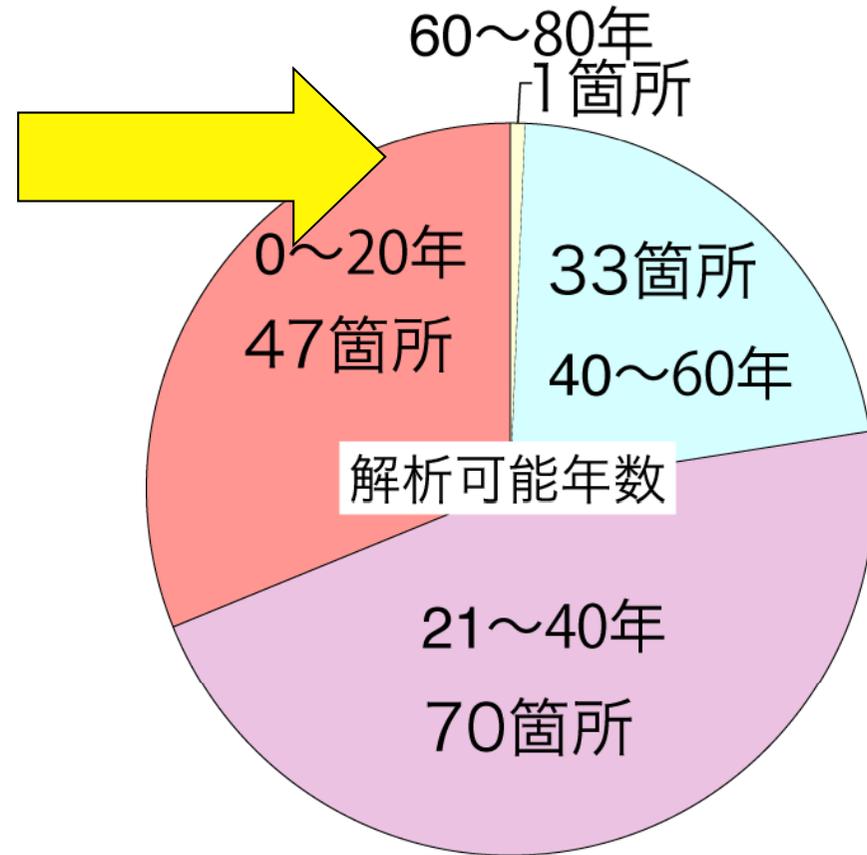
設計高潮位 = { 既往最高潮位  
 朔望平均満潮位 + 既往最大潮位偏差  
 朔望平均満潮位 + 推算最大潮位偏差

海岸保全施設の技術上の基準を定める省令・局長通達

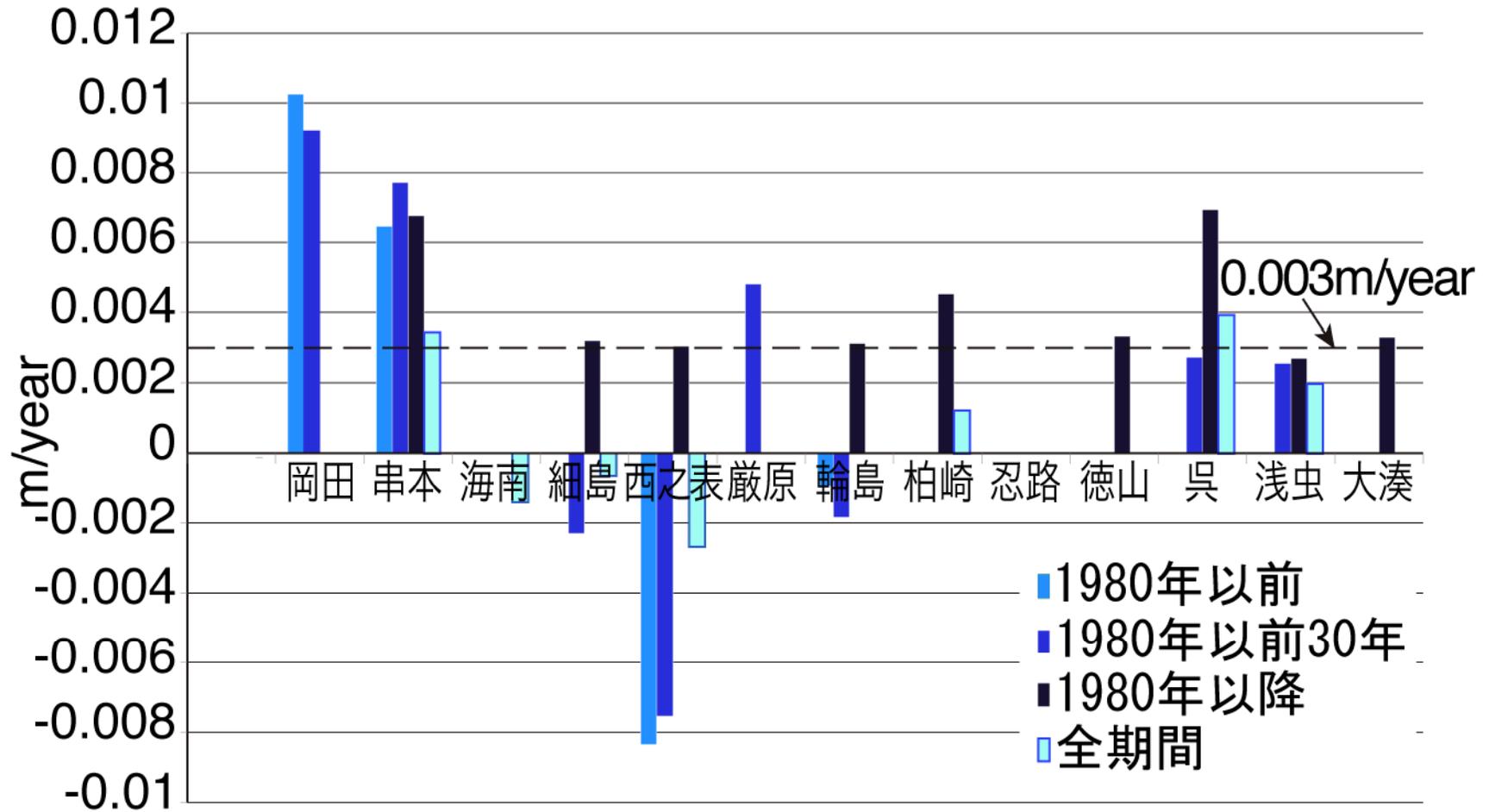
験潮場が設置されてからの  
年数別の箇所数



何らかの障害により解析が可能な年数が  
短縮された後の年数別の数



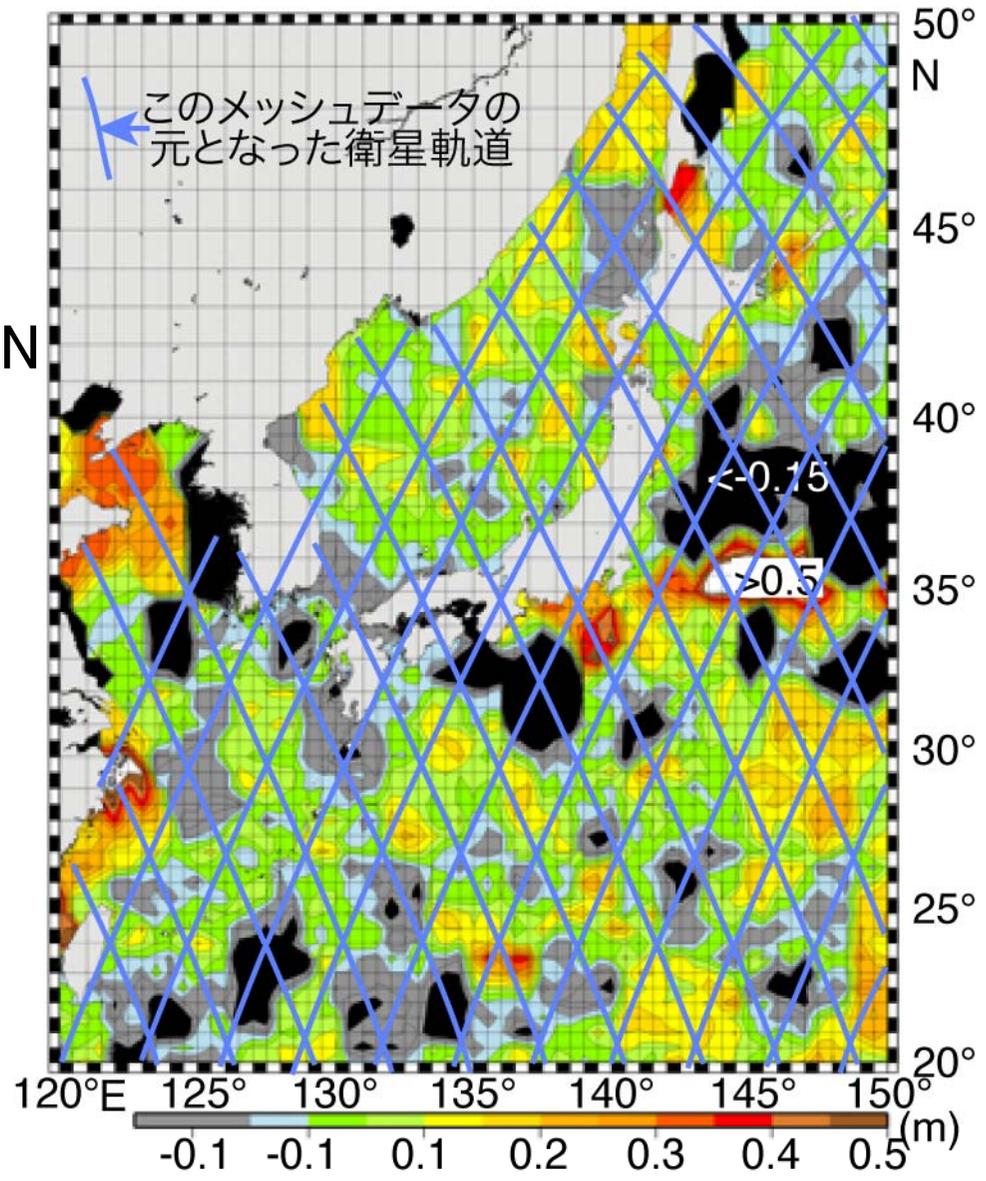
### 朔望年平均満潮位



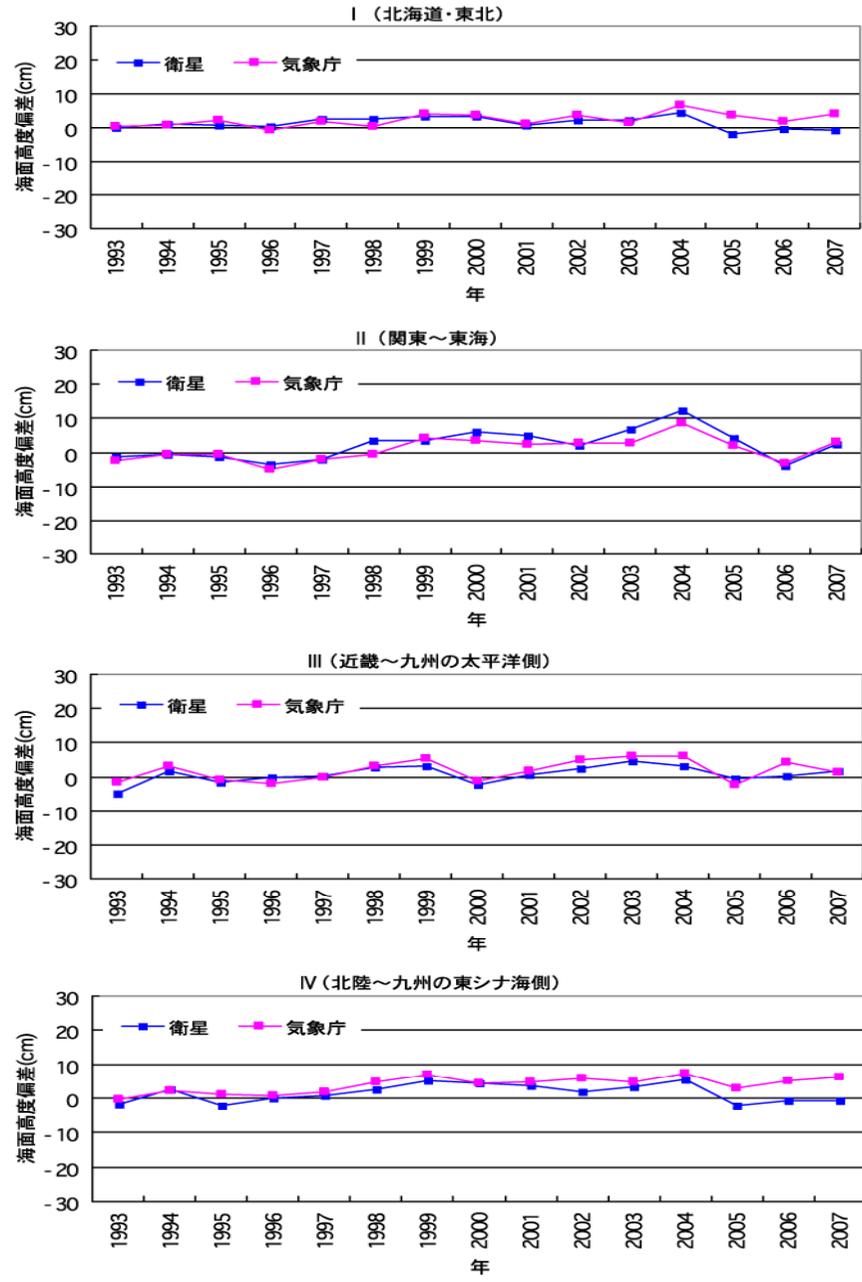
Mann-Kendall分析でトレンドを有しないと判定が出た場合には変化量は0

作成されたメッシュデータとその時の衛星軌道

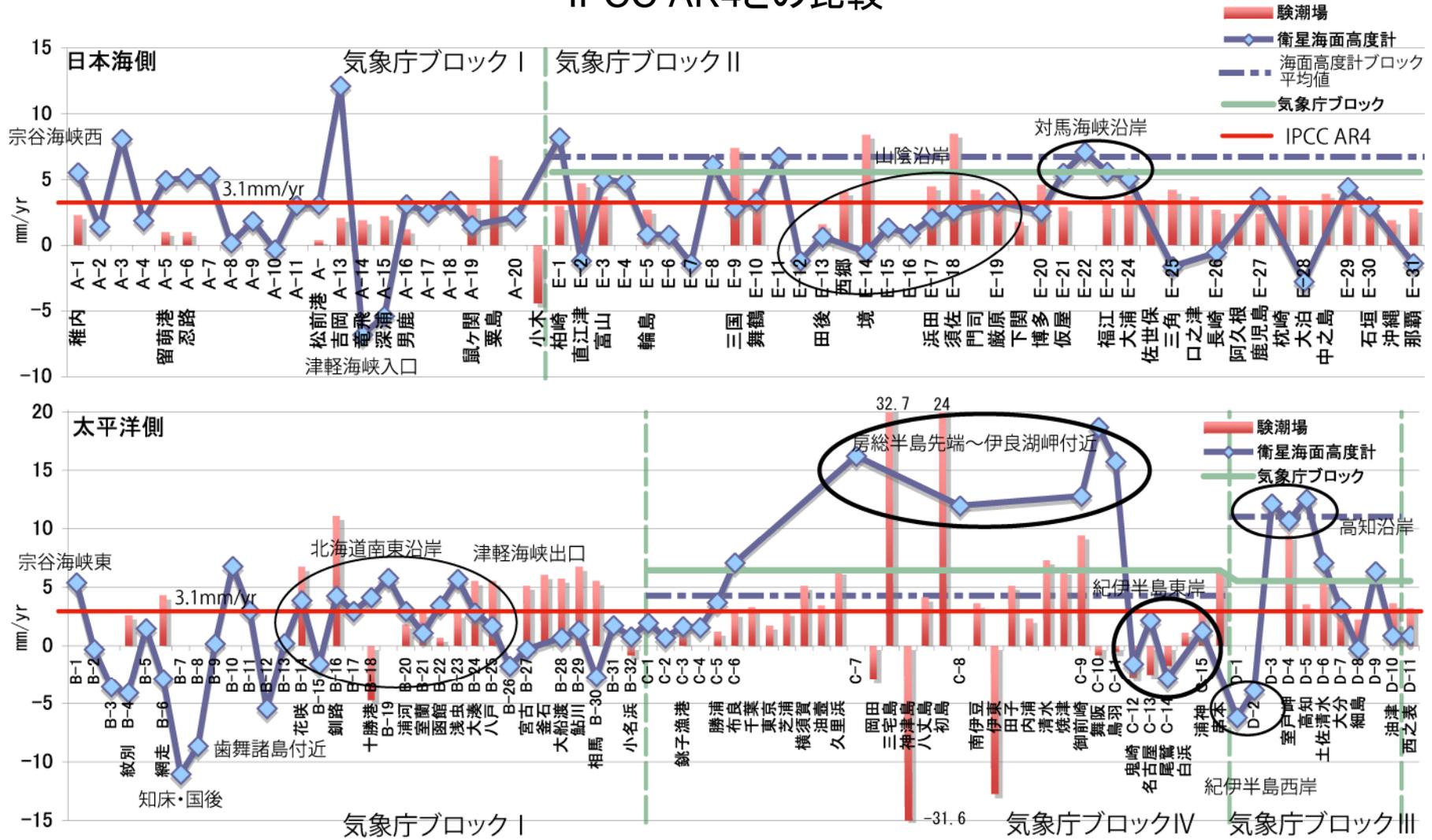
Topex/POSEIDON



# 衛星高度計と気象庁解析値の比較



# IPCC AR4との比較



IPCC AR4 記載の既上昇量3.1mm/ 年を基本とし、  
地先の状況に合わせ調整するのが妥当である。

# 各領域での各台風の最低気圧の年平均値

